◇ 地方会の記録

第14回 近畿集中治療医学研究会

期　日　昭和60年10月26日（土）午後1時30分～4時30分
場　所　大阪・日本生命中之島研修所
世話人　近畿集中治療医学研究会事務局　吉矢　生人
（〒553 大阪市福島区福島 1-1-50, 大阪大学医学部附属病院集中治療部内）

一般演題A　座長　奈良県立医科大学麻酔科　古家　仁

1. 解離性大動脈瘤に伴う心タンポナーデの1症例
大阪赤十字病院麻酔科　羽山　憬一，小松　研二，留守　信興
山岡　久泰

2. 大腿動脈送血による心室中隔穿孔術後に発生した急性腎不全の1治験例
—送血側下肢の阻血のため生じた高ミオグロビン血症—
奈良県立医科大学第三外科　関　寿夫，大山　朝賢，河内　寛治
飯岡　壮吾，小林　博，高　義昭
森田　隆一，金　烱澤，西井　勤
井上　毅，谷口　繁樹，根津　邦基
北村惣一郎
同　麻酔科　畔　政和，北口　勝康，下村　俊行
鈴木　敦裕
同　泌尿器科　丸山　良夫

3. 管理に難渋した心筋梗塞の一症例
大阪大学集中治療部　中島　伸，中谷　敏，福井　聖
日月　裕，岡田　俊樹，武沢　純
妙中　信之，吉矢　生人

4. 空気塞栓症をきたした坐位手術の一症例
—術後肺水腫の発生と superimposed HFJV の効果について—
大阪市立大学医学部麻酔科　寺井　岳三，緒方　章雄，行岡　秀和
鈴木　純二，西村　清司，藤森　貢

5. 高血圧性心臓病に伴う急性心不全に対するジルチアゼム静注法による治療経験
大阪警察病院心臓センター　平山　篤志，木村　佳弘，朝田　真司
増山　理，南都　伸介，中　真砂士
児玉　和久

臨時総会議事

一般演題B　座長　兵庫医科大学救急部　吉永　和正，的場　康子

6. 拡大食道根治術後に人工呼吸器を装着した患者の気道損傷予防の看護
国立京都病院救命救急センター　是沢　珠美，奥野　良子，田中　紀子
前田　君代，後藤　淑子
同　麻酔科　柴田　正俊，小林　敏信，石井　奏

7. ICU 長期滞在を要した3歳児の看護

天理よろづ相談所病院　川辺　千春，菅原美由紀，前田代三子
瓶子　時子

8. 多彩な合併症及び臨床症状を示した成人型髄膜炎の一例

関西医科大学救命救急センター　高田　達良，森口　哲也，木内俊一郎
守田　和彦，千代　孝夫，田中　孝也

9. 重症心筋炎経過中に虚血性大腸炎の併発が疑われた一症例

関西医科大学第二内科 CCU　吉村　昌佳，岩坂　壽二，斧山　英毅
杉浦　哲朗，北田　憲彦
同　第三内科　久保田佳嗣
同　外科　高田　秀穂
同　放射線科　沢田　敏，村田　貴史，中沢　緑

10. Flat EEG から回復した MOF の一例

大阪府立羽曳野病院集中治療科　荒木　良彦，小幡　泰憲，花本　澄夫
高　光重，川幡　誠一，木村謙太郎
同　外科　山西　博司

11. 外傷後，呼吸不全，DIC 並びに高ビリルビン血症を来たした一症例

大阪市立城北市民病院 ICU　橋本　亮治，江原　英治，橋塚　省三
鍜冶　有登，河崎　収，阪部　仁
佐谷　誠，西村　清司

12. 高ビリルビン血症に対する交換血漿—継続か中止か—

兵庫医科大学集中治療部　安本　良子，津田　三郎，宮井　潤仁
尾崎　孝平，速水　弘，丸川征四郎

世界会議ニュース　第5号

第5回世界集中治療医学会議会長挨拶

1986年の新しい年を迎えて，日本集中治療医学会会員の皆様に，恒例の頌春の賀詞を申し述べる代わりに，来る1989年国立京都国際会館にて開催される第5回世界集中治療医学会議への期待と抱負を開陳し，ここに世界会議役員を代表して皆様の絶大なる御協力と御援助を心からお願いする。

既に本誌に毎号掲載されている世界会議ニュースにより，その従来よりの経緯及び現在の準備進行状況は詳細に報告され，御承知のことと存じる。この世界会議ニュースにより世界会議の準備状況を，毎月お報せして，全てを時々刻刻会員の皆様に公開し，決して一部役員のみの業務内容として秘蔵するものでなく，常に皆様の批判の下に曝すとともに，建設的な御助言と御協力を期待しているのである。また役員も準備開始当初に於ける必要最小限の人数をもって出発したもので，いずれ進行に応じ，必要な委員会を設置すると共に，多数の有能なる会員諸兄には，適材適所，実務の活動をお願いすることになっているので，その節には宜しく御承諾かた賜りたい。

会議の規模としては，参加者，国内外・家族同伴者をあわせて最低3500名を期待しており，公用語は英・仏・西の三国語であるが，全会場日本語の同時通訳を加え，かつ一部の会場では日本語による発表をも可能たらしめたいと考える。会議は特別講演・教育講演・シンポジウム・パネルディスカッション・ワークショップ・学術展示など多岐にわたるが，御承知のごとく，国立京都国際会館は十二分にこれらの用件に応えることが出来る。さらにコンピューター設備を増設して，個人メッセージを含む会議関係情報システムを完備する予定である。

参加費は現在の経済状況からすれば，満足のゆく程低廉には出来ない見通しであるが，大いに努力して，少なくとも若い会員諸兄姉には特別の優遇措置をとるべく苦心中で，そのためには早期の会費納入をお願いすることになりそうである。特に看護婦諸姉には一日会員制をも考慮中である。

そこで最近の組織委員会（第3回・昭和60年10月29日開催）の決定を踏まえて，状況報告に代えさせて頂くことにする。

(1) Symbol Mark の決定
従来の幾何学文様と異なり，柔らかい日本風のデザインになった。富士山に真っ赤な太陽をあしらったものである。約12種類の候補作品より選定された。

(2) メイン・テーマの決定
"High-Technology & Humanity For Intensive Care"
これにより，この会議の基本思想を象徴することになった。これも極めて多数の提案のなかから，英語を母国語とする一般外国人一名，医師一名により，英語としてまた医学者の立場より，各提案を検討，取捨選択の上，組織委員会で最終決定したもので，武下学術委員長の御苦心の賜物である。

(3) 公用箋・公用封筒の体裁決定
これは従来の世界会議公用箋の体裁を踏襲した。即ち最上部両サイドに，われわれと世界連合の Symbol Mark を配した。役員は日本の会議主要役員を上に，世界連合役員を下に並べ，連絡先として事務局(日本コンベンション・サービス)宛名を記載した。

(4) 開催趣意書の決定
体裁・文章について逐条審議して決定した。これに予算書を付し，募金を必要とする理由をつけ加えると募金趣意書となる。したがって開催趣意書を100部印刷し，募金のため，版下を残すことにし

た。これによって各後援団体への後援についての正式お願い，また権威者に対する顧問就任のお願いをいよいよ開始出来ることになった。

なお，世界連合の President. Secretary-General. AACN の President その他より多数の来信があり，激励，要望，問い合わせ，参考事項などで，国際的に大きな反響と絶大なる期待があることを知り得た。また ASA のMeeting を始め，すでに機会をとらえて宣伝，周知の努力を開始しているが，First Circular を本年夏ごろには完成する予定であるので，本格的な対外活動はその後になるが，それ以後海外の諸会合に参加される会員は必ず事務局に連絡され，First Circular を携え，海外での広報・周知活動に大いに御協力戴くことを心からお願いして新年の御挨拶に代える次第である。

編集委員：岩月　賢一　五十嵐正男　青地　修　小坂二度見
石原　昭　奥秋　晟　天羽　敬祐　早川　弘一

ICU と CCU
（集中治療医学）
C 1986
昭和61年1月 Vol. 10／No. 1
（毎月1回10日発行）
定　価 1,800円（送料弊社負担）
年ぎめ予約購読料（12誌）21,600円
〃 総会号（臨時増刊号）（13誌）24,100円

発行日　昭和61年1月10日
発行者　鈴木吉見
発行所　〒113　東京都文京区本郷2丁目28番1号 東金ビル
医学図書出版株式会社
電話（03）811—8210（代）
振替口座　東京　3-132204

広告取扱店・丹水社　電話（03）561-1323